

株主のみなさまへ

# 株式会社 安川電機

## 第104期中間ご報告

2019年3月1日 ▶ 2019年8月31日

(証券コード: 6506)

### 株式会社 安川電機

株主のみなさまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2019年度中間期における当社グループの業績につきましては、中国の経済政策により一旦持ち直す動きがみられたものの、米中貿易摩擦の拡大影響や半導体市場全般の投資先送りなどにより、グローバルで設備投資に慎重な姿勢が継続したことから、厳しい状況となりました。

このような状況下、当社グループは2019年6月に長期経営計画「2025年ビジョン」の見直しを行うとともに、新中期経営計画「Challenge 25」をスタートさせました。「2025年ビジョン」では経営理念を基本に、前中期経営計画の遂行状況や事業環境の変化を捉えながら、私たちが目指す姿を改めて明確にしています。また、当社グループの事業領域についてメカトロニクスを軸とした「工場自動化・最適化」と、「メカトロニクス応用領域の拡大」の2つに再定義いたしました。コア事業の進化により、お客さまの経営課題の解決に寄与するとともに、メカトロニクス技術を応用した新規分野の拡大により、社会に更なる付加価値を生み出していきます。

また、新中期経営計画「Challenge 25」では、「2025年ビジョン」実現に向けた第2ステップとして、前中期経営計画で進めてきた施策をさらに加速させ、i-Mechatronics (アイキューブ メカトロニクス) による新しいビジネスモデルにチャレンジすることで、新たな価値・市場の創造に挑戦してまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後ともなお一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年11月

代表取締役社長 **小笠原 浩**

● 売上高 (単位: 億円)



● 営業利益 (単位: 億円)



● 親会社に帰属する当期純利益 (単位: 億円)



\*2017年度通期の実績は、決算期変更により対象期間が2017年3月21日～2018年2月28日の数値です。

# セグメント別の概況

## モーションコントロール

世界のニーズにこたえるモーションコントロール事業

ACサーボモータ・コントローラ、インバータなどの製品は、生産設備の高度化ニーズに応え、省エネに貢献しています。

### ■事業の概要

ACサーボモータ・コントローラにおいては、スマートフォン関連需要の低迷や半導体関連の投資先送りに加え、米中貿易摩擦の長期化に伴う影響拡大により、前年同期には高水準だった生産設備の高度化・自動化に関する需要が減速したことから、売上高は減少し、営業利益は操業度の悪化などにより減少しました。

インバータにおいては、中国での環境規制対応のための設備投資や社会インフラ関連の投資が継続したことに加え、米国におけるオイル・ガス関連需要が堅調に推移したことなどから、売上高・営業利益はともに底堅く推移しました。

これらの結果、ACサーボモータ・コントローラ事業での需要低迷の影響を大きく受け、セグメント全体の業績は悪化しました。

### ■新製品

#### 世界最小クラスの高機能インバータ「GA500」を販売開始

GA500は汎用の小型高機能インバータとして幅広いアプリケーションに適用でき、現場の機械を画期的に進化させることができます。また、止まらない機械・設備を実現する“故障予兆診断”で、IoTへの対応、生産管理の効率化に貢献します。



インバータGA500

売上高 前年同期比\*21.6%減  
**923億61百万円**

営業損益 前年同期比\*51.3%減  
**108億96百万円**

#### 主な用途

- コンプレッサ・真空ポンプ・ファン・ポンプ・コンベヤなど

## ロボット

新たな挑戦を続け進化するロボット

自動車関連市場を中心に、さまざまな産業分野において溶接、塗装、組立、搬送などの自動化に貢献しています。

### ■事業の概要

溶接・塗装ロボットなど自動車関連向けの売上は日本で底堅く推移した一方、米国などで伸び悩むなど、地域ごとに強弱混在の状況となりました。特に中国においては米中貿易摩擦の影響を大きく受け、自動化投資は勢いを欠く状況が継続したことから、セグメント全体の売上高は前年同期から減少しました。また、営業利益は、売上減少や在庫調整などにより操業度が悪化し、前年同期から減少しました。

売上高 前年同期比\*8.6%減  
**806億29百万円**

営業損益 前年同期比\*63.7%減  
**33億53百万円**

### ■新製品

#### 人協働ロボット「MOTOMAN-HC10DT 防じん・防滴仕様タイプ」を販売開始

人協働ロボットMOTOMAN-HC10DT 防じん・防滴仕様タイプは、工作機械へのワーク投入など、ちりやほこり、液体の混入などが想定される過酷な環境においても導入が可能になり、多様化する現場のニーズに応えます。



MOTOMAN-HC10DT 防じん・防滴仕様

#### 主な用途

- 自動車・機械関連部品などの搬送・組立、工作機械へのワークの投入（メンテナンス）、食品の搬送・薬品・化粧品などの搬送

## システムエンジニアリング

世界に誇る安川電機のシステム技術

1世紀にわたり培った技術と豊富な実績により、社会の安全・安心と豊かな暮らしを支えます。

### ■事業の概要

環境エネルギー分野においては太陽光発電用パワーコンディショナの販売が伸び悩んだことに加え、鉄鋼プラント関連では案件の後倒しにより売上が減少しました。一方、社会システム分野では国内における上下水道用電機システム関連の売上が底堅く推移し、港湾クレーン向けの売上が堅調でした。

これらの結果、セグメント全体の売上高は新規連結の影響もあり伸長した一方、利益面においては鉄鋼プラント関連の売上減少などにより収益性が僅かに悪化しました。

売上高 前年同期比\*16.6%増  
**273億71百万円**

営業損益 前年同期比\*38百万円 悪化  
**△7億25百万円**

### ■新製品

#### 太陽光発電用パワーコンディショナ「XGI1000 65kW」を販売開始

太陽光発電用パワーコンディショナ XGI1000 65kWは産業用高圧および特別高圧案件向け分散型ソリューションとしてトータル発電コストを低減させ、太陽光発電の主力電源化に貢献します。

太陽光発電用パワーコンディショナ XGI1000 65kW



\*前年同期比に用いる2018年度の業績値はセグメント区分見直し後の数値

# 長期経営計画「2025年ビジョン」の見直し

～営業利益1,000億円に向けて～

経営理念を基本に、環境の変化を見据えた安川グループが目指す姿を再度明確にし、メカトロニクスをコアとした「工場自動化・最適化」と「メカトロニクス応用領域」をビジョンとして再定義しています。「2025年ビジョン」の実現に向け「営業利益」を最重要KGIとし、2021年度に営業利益700億円、2025年度に1,000億円を目指します。

## 安川グループの2025年ビジョン



### 「工場自動化/最適化」



「i<sup>3</sup>-Mechatronics」を軸とした産業自動化革命の実現  
メカトロニクス技術とICT技術の融合により、新しい自動化ソリューションを提供します。

#### 既存コア事業で世界一を追求

産業用ロボットとモーションコントロール分野におけるグローバルシェアNo.1を追求します。

### 「メカトロニクス応用領域」



新たなメカトロニクス応用領域への挑戦  
メカトロニクス技術が応用できる分野を探索・実証しながら、事業化を見極めていきます。



2030年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

#### 持続可能な開発目標 (SDGs)

国際社会が取り組むべき社会的課題として、2015年9月に「持続可能な開発目標 (SDGs)」が国連総会で採択されました。SDGsの17の開発目標のうち、当社事業が関連する目標について、価値創造を通してその達成に寄与していきます。

## 安川グループの中期経営計画

**Dash 25**  
高収益企業体質の確立

**Challenge 25**  
新しい価値・市場の  
創造に挑戦

**Realize 25**  
ビジョンの実現

### 財務目標

	2016-2018	2019-2021	2022-2025
	2018年度(実績)	2021年度(目標)	2025年度(目標)
売上高	4,746億円	5,400億円	—
営業利益 (営業利益率)	497億円 (10.5%)	700億円 (13.0%)	1,000億円以上
ROE <sup>※1</sup>	17.1%	15.0%以上	15.0%以上
ROIC <sup>※2</sup>	17.2%	15.0%以上	15.0%以上
配当性向	33.4%	30.0%+α	30.0%+α

※1 Return on Equity (自己資本利益率) = 親会社株主に帰属する当期純利益 / 自己資本

※2 Return on Invested Capital (投下資本利益率) = 親会社株主に帰属する当期純利益 / 投下資本

# 新中期経営計画「Challenge 25」について ～基本方針と重点方策～

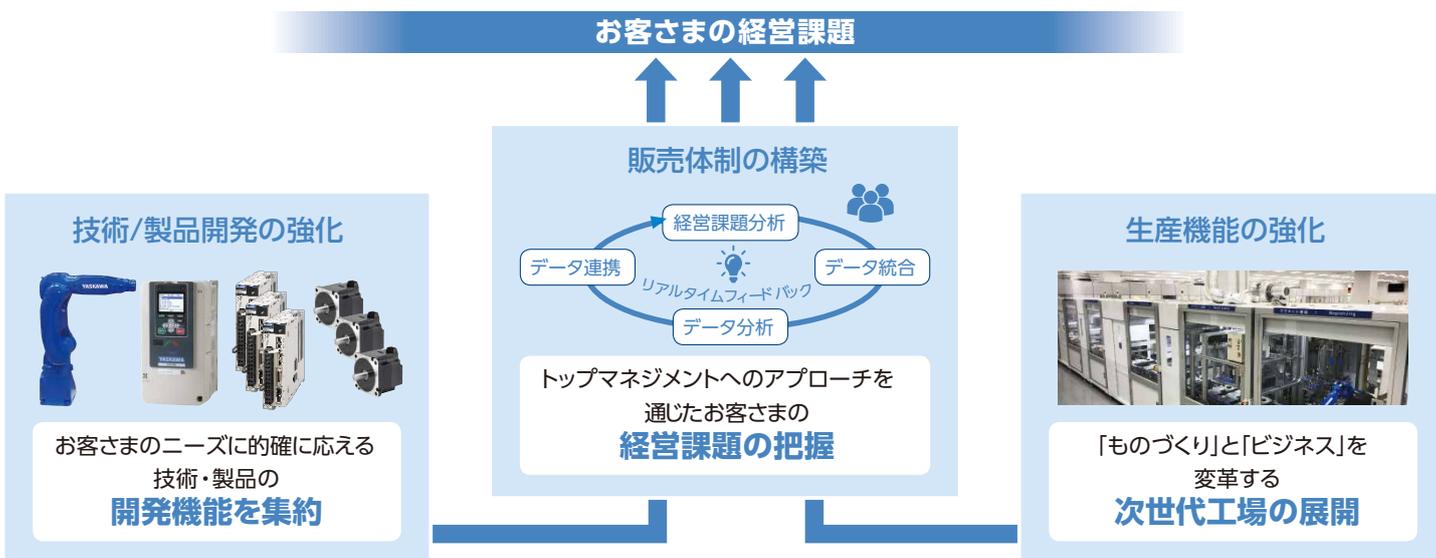
「新しい価値・市場の創造に挑戦」をテーマに、「2025年ビジョン」で目指す目標達成に向けた施策を確実に実行していきます。2019年度からスタートした新中計「Challenge 25」では、「2025年ビジョン」実現に向けた第2ステップとして、「Dash 25」で進めてきた施策をさらに加速させ、新しいビジネスモデルに挑戦し、新たな価値・市場の創造を目指します。

## 「Challenge 25」における事業戦略

「2025年ビジョン」で定義した2つの事業領域「工場自動化／最適化」「メカトロニクス応用領域」において、「Challenge 25」では、3つの基本方針のもと、更なる成長に向けた施策を実行していきます。

### 基本方針 1 i<sup>3</sup>-Mechatronicsによるビジネスモデル変革

生・販・技の進化により、お客さまの経営課題の解決に寄与



### 基本方針 2 拡大する“ロボティクス”ビジネスでの収益最大化

高い成長が見込まれる“ロボティクス”市場<sup>※3</sup>における事業拡大を加速



「3C<sup>※4</sup>」を中心とした中国・アジア市場の攻略



「自動車」完成車／部品メーカーとの取り組み加速



「半導体」製造装置市場での取り組み強化

※3 ロボットを含む自動化領域

※4 コンシューマー向け、デジタルコミュニケーション機器の略 (Computer、Communication、Consumer Electronics の3語の頭文字から)

### 基本方針 3 “選択と集中”によるリソース強化で新領域拡大

当社のメカトロニクス技術の強みを生かせる分野にリソースを集中し、新領域の拡大を加速



Energy Saving

省エネ機器  
高効率モータ

応用領域の拡大



Food & Agri

野菜生産システム  
食品工場自動化

事業の本格立ち上げ



Clean Power

風力  
太陽光  
電気自動車 (EV)

収益力強化



Humatronics

リハビリ機器  
バイオメディカル

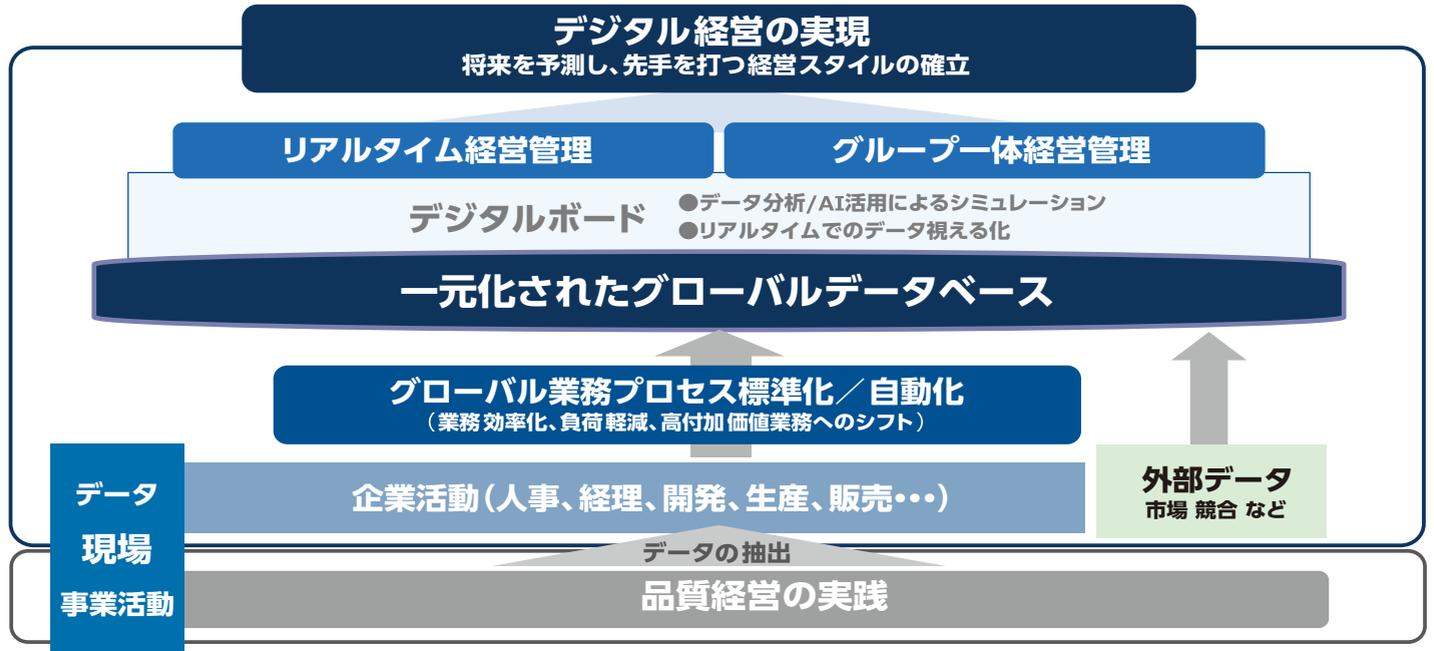
ビジネスモデル構築

# 持続的成長を実現する経営基盤の強化

当社グループの事業活動・企業活動・対話と協創を通じて生み出す社会的価値を最大化し、持続的成長を実現していくための経営基盤の強化に取り組みます。

## デジタル経営と品質経営を通じた経営効率の向上

経営に関するデータをグローバル一元化し、ITの活用による徹底したデータの「見える化」を推進します。そして、見える化したデータをもとにリアルタイムな経営管理を行い、将来を予測し、先手を打つ経営スタイルの確立を目指します。



## 社会の持続的成長と企業価値の向上に向けた取り組み

様々な社会課題に対して、事業活動を通じた課題解決をさらに加速させるとともに、社会の持続的成長を実現させるESGの取り組みを通じ経営基盤の強化を図ります。



「Challenge 25」の詳細は当社公式サイトでご覧いただけます。

<https://www.yaskawa.co.jp/wp-content/uploads/2019/06/Challenge25.pdf>



●株式の状況 (2019年8月31日現在)

■発行済株式の総数 ..... 266,690 千株

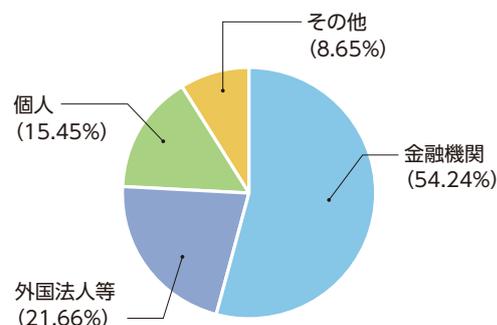
■株主数 ..... 73,572 名

■大株主の状況

大株主(上位10位)	持株数	持株比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	33,454千株	12.74%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,185千株	9.59%
株式会社みずほ銀行	8,100千株	3.09%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行退職給付信託口)	7,970千株	3.04%
明治安田生命保険相互会社	7,774千株	2.96%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (三井住友信託銀行再信託分・株式会社福岡銀行退職給付信託口)	5,100千株	1.94%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	4,563千株	1.74%
第一生命保険株式会社	4,199千株	1.60%
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234	4,151千株	1.58%
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	3,466千株	1.32%

(注)持株比率は、自己株式を控除して計算しております。

■所有者別株式分布状況



■配当金情報

第104期(自2019年3月1日 至2020年2月29日)配当について			
中間配当	1株につき	26円	
期末配当	1株につき	26円(予想)	
年間	1株につき	52円(予想)	

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会開催月/配当金受領株主確定日	5月 / 毎年2月末日および8月31日
公告方法	電子公告 (https://www.yaskawa.co.jp/ir/)
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社

■未払い配当金のお支払い

みずほ信託銀行・みずほ銀行の本店および全国各支店にてお支払いいたします。

※みずほ証券の本店および全国各支店においても、取次ぎをいたします。

■住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法のご指定、確定申告、相続に伴うお手続き、マイナンバーのお届出等

証券会社に口座をお持ちの株主さま 口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

証券会社に口座をお持ちでない株主さま(特別口座に記録されている株主さま) 下記連絡先にお問い合わせください。

●みずほ信託銀行 証券代行部 フリーダイヤル 0120-288-324

■お問い合わせ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

フリーダイヤル  
 0120-288-324

オフィシャルサイト、YASKAWAレポートのご案内

https://www.yaskawa.co.jp/

最新のニュースやIR情報、製品情報など当社をご理解いただくためのさまざまな情報をご提供しています。

安川電機



QRコード



YASKAWAレポート2019

本統合報告書は、中長期戦略の詳細説明や、ESG目標に対するKPIの設定、社外取締役によるサステナビリティをテーマにした座談会の掲載など、当社グループの中長期的な価値創造のしくみを様々な側面からご理解いただけるよう心がけて編集しております。ぜひご覧ください。

QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。